



「思いやり算」

校長 菅谷 和孝

先日(5月25日)に、本校校庭にて第41回体育祭が開催されました。本年度のスローガン「輝け！かけがえない時間を共に」を掲げ、各学年が3つの団(赤団・青団・黄団)に分かれて競技を行いました。各学年の結果(点数)が所属団に加わることもあり、3年生の団長を筆頭とした応援がどの種目にも繰り広げられ、大いに盛り上がった体育祭でした。

最終競技種目、3年生の全員リレーのことでした。さすが3年生という迫力のあるリレーを展開していく中で、必死に応援する1・2年生の姿に参観して下さった保護者の中に「団っていいなあ」「一つになって応援している光景、感動しちゃう」などの声が私のところにも聞こえ、胸が熱くなりました。そして終盤にかけ、ほぼ結果が分かってしまうような走順の生徒も必死になって次の人に繋ごうと走る姿、ゴールを目指す姿に感動しました。全てのチームがゴールし、順位が確定。本来ならばそこで生徒が速やかに退場するはずなのですが、しばらくしても生徒が退場しません。様子を見てみると、走っていた3年生が1・2年生の応援団の前に横並びになり、「応援ありがとうございました」と感謝を述べていたのです。

中学校生活最後の体育祭で最後の種目で、必死になって走っている生徒へ、少しでもパワーを届けたいと一生懸命声援を送る1・2年生。その声援に体現して応える3年生。そして、互いに対してのありがとう。学年の垣根を超え、思いやりのある集団のあるべき姿としてその光景を目にした時、「なんて素晴らしい生徒たちなんだろう」と誇りに思いました。

そのようなことを感じていた時に、ふと「人を笑顔にする四則計算(思いやり算)」を思い出しました。

<人を笑顔にする四則計算>

「+」 たすけあうと大きな力に

「-」 ひきうけると喜びが生まれる

「×」 声をかけるとひとつになれる

「÷」 いたわると笑顔が返ってくる

中学校生活は様々な人が、様々な思いを持ちながら生活する場です。考え方や捉え方、性格も普通という概念も異なります。そのような生徒が1つの目標や思いに対して1つになれるのが学校行事だと思います。そして、学校の様々な行事は決して1人でできることではなく、戦う相手が居たり、支え合う仲間が居たり、協力してくれる支援者が居たり、何よりも目標や目的に向かって一生懸命努力する者がいるからこそ成立します。さらにはそれぞれの思いに溢れた歯車が合わさった時、生徒自身の成長に加え、他者を笑顔にしたり、感動させたりする力があると思っています。

今月末には学校総合体育大会の予選会が始まります。文化部においても各種コンクールが始まります。昨年度の大会やコンクールから1年。是非、藤久保中学校の生徒同士でしか解が見出せない「思いやり算」を体現し、生徒自身も含め、1人でも多くの笑顔が生まれることを願っています。

保護者の皆様におかれましては、早朝からの弁当づくりや会場での声援等、様々な御支援、御協力に感謝申し上げます。生徒達の「全力藤久保」を、より一層発揮できるパワーとし、御家庭での後押し、宜しくお願い致します。